

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~1日	4月 ~6日	4月 ~15日	4月 ~22日	4月 ~29日	5月 ~6日	5月 ~13日	5月 ~20日	5月 ~27日	6月 ~3日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	19	18	20	29	19	12	31	19	13	23
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	21	21	19	15	22	7	30	21	17 (20)	20
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	0	0	2	1	2	0	2	1	0	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	6	6	2	7	3	4	2	0	4	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	2	3	1	4	2	1	5	3	3	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	6	12	16	9	7	4	3	2	1	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	1	2	1	0	0	0	3	0	1	0

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第22週(5月28日~6月3日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	6	結核	6			4	1	1			
三類	0	発生なし	0								
四類	8	日本紅斑熱	1							1	
		レジオネラ症	7	2		1		4			
五類全数	22	アメーバ赤痢	1	1							
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2				1	1			
		侵襲性肺炎球菌感染症	1	1							
		水痘(入院例)	1				1				
		梅毒	7			1			5		1
		百日咳	10		8			2			

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第22週 5/28～6/3)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 梅毒

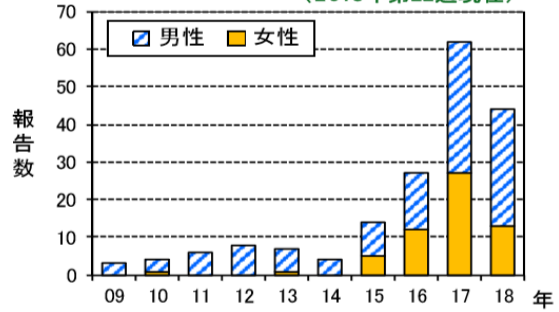
5件の報告があり、今年の累計は44件(昨年同時期の約2.1倍)となりました。過去最多となった昨年(62件)を上回るペースで増加しています。

梅毒は、性的な接触(感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触)などにより感染します。感染部位にしこりができたり、リンパ節の腫れ、全身に「バラ疹」と呼ばれる赤い発疹が出るなど、様々な症状が現れます。痛みがないことも多く、発疹は治療をしなくても消える場合や再発を繰り返すこともあります。

感染の疑われる症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

梅毒の年間報告数の推移

(2018年第22週現在)



【参考】梅毒に関するQ&A(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	増減	
														前週と比較してのおおむね	1:2以上の増減
小児科	インフルエンザ	7	0.19	0.18			小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.67			急増減	前週と比較してのおおむね1:2以上の増減
小児科	咽頭結膜熱	23	0.96	0.78			眼科	RSウイルス感染症	6	0.25	0.13			増減	前週と比較してのおおむね1:1.5~2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	3.00	3.35				急性出血性結膜炎	-	-	0.03			微増減	前週と比較してのおおむね1:1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	159	6.63	7.79			基幹	流行性角結膜炎	5	0.63	1.09			横ばい	ほとんど増減なし
	水痘	5	0.21	0.83				細菌性髄膜炎	-	-	-				
	手足口病	52	2.17	1.76				無菌性髄膜炎	-	-	0.08				
	伝染性紅斑	2	0.08	0.23				マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.11				
	突発性発しん	11	0.46	0.53				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	ヘルパンギーナ	28	1.17	0.58				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14					

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	61	女性(80歳代)
4	レジオネラ症	4	9	男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、女性(70歳代)・市外・1人、男性(80歳代)・1人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	2	男性(80歳代)
5	梅毒	5	44	男性(20歳代)・1人、女性(20歳代)・1人、男性(40歳代)・2人、男性(50歳代)・1人
5	百日咳	2	14	女性(40歳代)・1人、男性(50歳代)・1人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	水疱	2	女	2018/04/13	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
その他の神経系疾患	左顔面神経麻痺 鼻炎	1	女	2018/04/22	鼻汁	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載